

憩の家が高級温泉ホテルに

約12億円を投じ、憩の家かや沼の改修が進められています。「上質化」が目的の補助事業によって、これまでとは比較にならない高級温泉ホテルが誕生します。築40年以上(本館)の老朽ホテルが、ほぼ新築の状態になります。改修完了は、10月末。

ピルカの失敗は生かされなかった

利用料金は、庶民感覚とはかけ離れた金額を設定しなければ採算はとれません。売上目標の1億2千万円を達成するためには、11月から4月までの閑散期に宿泊客をどう確保するかが大きな課題です。過去に塘路湖畔のピルカ・ところが、同様の理由から実質年間2千万円以上の赤字を出し続け、結果廃業しました。虹別で営業する民間ホテルも、冬季は休業しています。

赤字額を上乗せした指定管理料?

運営を担う民間事業者は、改修後の憩の家も年間3千万円以上の収支不足になると予想しています。それでも運営に名乗り出たのは「赤字を公費で埋める」方針を町が打ち出しているからではないでしょうか。この点について、議会での質問に町は、「赤字補填ではなく、あらかじめ不足額を上乗せした指定管理料を支払

うことになる」と答弁しています。仮に、赤字の理由が建物の不具合や災害等による場合は協議が必要でず。しかし、予想される収支不足を先払いするなどありえません。ピルカ運営で赤字を背負った民間事業者からは「不公平」との声も。



トイレのない家などあり得ない

現在、最も深刻なのは「トイレのない家」を建てている状況であること。それは、新たに掘削した温泉を流す仕組みも場所も、現状では未定だと言っている。最悪の場合、ラムサール条約に登録されているシラルト口湖が排出先になるのかも知れません。国立公園内唯一の温泉宿泊施設の「売り」は、温泉の質と周辺の環境です。シラルト口湖への温泉排出は、設備等にかかる費用が全て町の負担となります。いくらかかるのか・・・そもそも、建物ができても営業する日はいつになるのか、心配は尽きません。

総額13億円、借金は9億円

改修後、周辺の環境整備や従業員住宅の整備、車庫、物置、バーベキューハウスの整備が必要でず。また、建物に見合う備品の購入もあり、憩の家にかかる費用はまだ増えます。燃料や資材高騰分の差額は、これから追加されます。現状で総額13億円、補助金4億円、辺地債借入8億円、一般財源1億円。辺地債の内、交付税で補填されない金額が1億5千万円。

内容	金額	補助金	備考
基本計画	1400万	なし	著名建築家
実施設計	3000万	1500万	著名建築家
本体工事	10億円	3億9000万	町内建設業者
付帯工事			
外構工事	7000万～	未定	町内土木業者?
備品購入	5000万～	なし	著名デザイナー
その他	1億円～	なし	排水等